令和8年度 先進都市視察　報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津	市議会				
報告者	議長	大塚　英一	副議長	村田　雅利	事務局長	橋本　幸男
視察日時	令和8年7月29日（水）　10：00～12：00					
視察先	埼玉県戸田市					
視察内容	教育改革の取り組みについて					
概　要	先進都市視察の2日目は、埼玉県戸田市を訪問し、「教育改革の取組について」学んだ。戸田市は交通ネットワークが充実しており、都心まできさほど時間をかけずに行き来できることから、若い世代が移り住む地域であり、31年連続で県内一若い街であるとの説明を受けた。しかしその一方で、学力が総じて低く、荒れた学校が多いという状況があったとのことである。そうした状況をどのように変革してこられたのかについて、戸ヶ崎教育長による取組を学ばせていただいた。					
所　見	戸田市では、未来を見据えた教育改革を最優先課題とし、経験や勘に頼る従来型の教育から、客観的なデータと科学的根拠に基づく「EIPP」への転換を進めている。授業改善においては、教員の優れた指導技術を可視化し共有するルーブリックの活用をはじめ、読解力向上を目的としたRST、PBL、STEAM教育など、多面的な取組が展開されている。また、ICT機器やレーザー加工機等を整備し、子どもたちが日常的にICTを活用できる教育環境づくりも進められている。 不登校対策では、校内サポートルームを全校に設置するとともに、教育支援センター、オンライン、メタバース、SNS相談など、多様な学びと相談の場を確保している。さらに、AIによる不登校予兆検知など、データを活用した先進的な支援にも取り組んでいる。 視察を通じて特に印象的であったのは、戸ヶ崎教育長の高い熱意と、「自問自動」という言葉に象徴される主体的な改革姿勢である。誰かに変えてもらうのを待つのではなく、自らできることから始め、学校は内側からしか変えられないという考えのもと、産官学連携の入り口として先端技術を積極的に取り入れていた。教育DXは単なる機器導入にとどまるものではなく、現場の意識改革、エビデンスに基づく授業改善、多様な居場所の確保を一体的に進めることが重要であると再認識した。。					